平成 15 年度環境科学センター研究推進委員会指摘事項への対応

課題名　最終処分場の廃止に向けた安定度判定に関する研究

主な指摘事項	環境科学センターの対応
○　各地で問題化している処分場についての重要なデータが期待されます。神奈川県独自のデータがいずれは何らかの形で公表されるようになることを期待しております。	○　今回得られるデータは、学会、研究会等、機会を逃さず発表したいと考えています。
○　最終処分場の安定化を評価判断するには、それなりの時間が必要であり、本研究の設定期間では難しい面もあると考えます。しかし、長期的なデータを蓄積することに加え、何を、どのように測定・監視すべきかを考えることは非常に重要なことであり、この研究の成果を期待しています。	○　本研究は３年で一旦まとめ、さらに継続が必要な場合は、重点基礎研究等により取り組んで行きたいと考えています。ご指摘のように、安定度の判定に際し、調査項目及び監視体制等について、調査結果を元に提案したいと思います。
○　埋立地浸出水のモニタリングを中心とした研究であり、基礎的であるが重要な研究である。単にモニタリング結果のみが成果ということではなく、安定度判定の基準をつくれるよう、評価方法の確立も視野に入れて、研究を進めてほしい。	○　モニタリング結果を基に、安定度の判定に向けた採取方法から判定方法まで具体的な方法を提案したいと考えています。

平成 15 年度環境科学センター研究推進委員会指摘事項への対応

課題名　最終処分場の廃止に向けた安定度判定に関する研究

主な指摘事項	環境科学センターの対応
○　重要な研究である。データ蓄積に努めていただきたい。	○　様々な気象条件での処分場からの浸出水を調査し、データの蓄積に努めます。
○　できるだけ多くの場での情報を取り入れて進めてほしいとともに、成果の情報発信を進めてほしい。 　何をポイントにしたいか、項目やその項目のどういう挙動かなどが、もう一つ伝わってこない。	○　多くの場で情報入手に努めていますが、情報の入手は困難な状況にあります。 　成果については機会を捉え発表していきます。安定化のポイントとしては、浸出液の降雨による水質変動の特性、ガスの発生状況等に注目していきます。
○　行政体ならではの研究といえる。処分場への住民の信頼を得るためにも確立すべき検証方法と言える。 　指標として挙げられている項目とそれ以外の有害化学物質排出との関連を、限られた例においても併せて検証する必要もあろう。	○　ご指摘のように、処分場への住民の信頼を得るためにも、規制項目以外の物質と規制項目との関連を調べていく必要があると考えています。これまで蓄積されたデータ、現在調査中のデータを併せ関連を提示できる物質を示していきます。